

Bellevue市  
災害耐性  
ネットワーク

ファシリテーターズガイド





# 目的

このファシリテーターガイドは、あなたの地域でDisaster Resilience Network (災害耐性ネットワーク、DRN) ワークショップを主催する際の支援を目的としています。このガイドには、2日間の会議に関する指示、併用するプレゼンテーションスライド、およびワークシートが含まれています。教材に関して質問がある場合や、ファシリテーター研修に参加したい場合は、Bellevue市のOffice of Emergency Management (危機管理局)、[oem@bellevuewa.gov](mailto:oem@bellevuewa.gov)までご連絡ください。

DRNワークショップは、各回90分のセッションを2回に分けて実施することを想定しています。あなたの地域が最大の効果を得るために、両方のセッションを完了することを推奨します。ただし、一部のみを完了した場合でも、地域における防災意識と耐性の向上につながるため、最も適切な選択をするようお願いいたします。

このガイドを進める中で、一部の内容は参加者に**読み上げる**ことを意図しており、他の部分は進行の指針として設計されています。スライドやワークシートが付属しており、視覚的かつインタラクティブに重要な概念の理解を深めるのに役立ちます。

- 「**読み上げ**」部分 (太字) は、参加者に直接読み上げ、トピックを紹介し、議論を導くためのものです。
- 「**ファシリテーター指示**」(標準の文章) は、進行役の参考用で、時間配分、議論の促し方、活動の管理に関する手掛かりを提供します。
- 必要に応じて、各セクションの見出しには**推奨時間**が記載されており、スケジュール通りに進行を行い、バランスの取れた実施を可能にします。



# 1日目：ネットワークの構築

## 導入

### ▶ ファシリテーター指示

補助用のPowerPointを開始してください。ファシリテーターガイドの各セクションには対応するスライドがあります。これは任意の要素であり、必須ではありませんが、ワークショップの体験を強化します。

### 資料

- 補助用PowerPointプレゼンテーション(任意)
- ノート
- 1日目ワークシート
- ペン／鉛筆

### 読み上げ

ようこそ、災害耐性ネットワークワークショップへ。このワークショップを通じて、災害への備えに関するスキルを身につけ、個人の知識や技能を地域の資源へと発展させます。このワークショップを完了することで、地域は災害時に互いを支え合い、効率的に復興できる可能性が高まります。

### ▶ ファシリテーター指示

PowerPointのアジェンダスライドに移動してください。

### 読み上げ

災害耐性ネットワークワークショップは、90分のセッションを2回に分けて実施する構成で成り立っています。本日のセッションでは、災害耐性ネットワークの基盤を築きます。まずは地域の災害リスクと基本的な防災の概念を学びます。その後、小さいグループでの活動を通じて、私たちの耐性ネットワークに不可欠な個人と地域のつながりを作り始めます。

## 緊急事態への備え概要(10分)

### ▶ ファシリテーター指示

PowerPointの緊急事態への備えに関する概要のセッションを開始してください。PowerPointのスピーカーノートには、進行の補助としてスクリプトが用意されています。PowerPointを使用しない場合は、このステップは省略していただいて構いません。

概要が終了すると、残りのセッションのためのビジュアルガイドに移行します。ワークショップの進行に合わせてスライドを進めていただけます。



## コミュニティの確立(10分)

### ▶ ファシリテーター指示

参加者と一緒に、コミュニティをどう定義するかを議論してください。参加者に結果をワークシートに記録させます。

#### 読み上げ

これから私たちの災害耐性ネットワークを構築していきます。そのためには、まず地域の境界線を定義することが重要です。境界線を定めることで、対象とする人や物を把握し、構築するネットワークに含めるべき要素を明確にできます。

私たちの地域を構築する際に考慮すべき点について：コミュニティをどう定義するか？

- 主要な特徴
- 地理的境界線
- 含まれる建物

## 役割とグループの確立(10分)

### ▶ ファシリテーター指示

各グループが将来の防災活動を促進するためにコミュニティコーディネーターを任命することが理想的です。

#### 読み上げ

これから、現在および将来の防災活動を円滑に進めるために、地域の中でいくつかの役割を決めます。最初に決めるべき役割はコミュニティコーディネーターです。選ばれた人は、地域における今後の備えの推進、住民の参画促進、そして緊急事態発生時の主要な窓口として責任を果たします。この役割はあくまでボランティアであり、今は無理に引き受けなくても大丈夫です。やりたいと思える方が出てきた時に担っていただければ結構です。

決定する前に、少し時間をとって選択肢を話し合しましょう。

### ▶ ファシリテーター指示

参加者に話し合ってもらい、誰がコミュニティコーディネーターになるか決めてもらいます。誰も選ばれない場合は、とりあえず決めずに先へ進んでもかまいません。

#### 読み上げ

それでは、コミュニティコーディネーターを決めましょう。ボランティアを希望する人はいますか？

### ▶ ファシリテーター指示

コーディネーターが決まったら、ワークショップ参加者は作業班に分かれて取り組むか、そのまま全員で一つのグループとして進めるかを選ぶことができます。10人以上の場合は、地域のブロックやフロアごとに複数のグループに分けることを推奨します。10人未満の場合は、1つのグループのままで構いません。

## 読み上げ

コミュニティコーディネーターがいる場合も、いない場合も、小さなグループに分かれてネットワーク作りを始めましょう。これらの小グループは、通り・ブロック・フロアごとに分かれます。

## ネットワークを知る(10分)

### 読み上げ

作業班が形成されたので、まずはお互いを知りましょう。自己紹介から始め、このワークショップに参加した理由、連絡先情報、居住地（共有したい範囲で構いません）を話してください。作業班を回る間に、ワークシートの連絡先カードを記入してください。ワークショップで記録された個人情報は、参加者の同意なしに他者と共有してはいけません。

### ▶ ファシリテーター指示

5～10分かけて、グループ内で自己紹介と連絡先カードの記入を行ってください。

### 読み上げ

自己紹介が終わったら、次は作業班内で役割を決めましょう。各グループでは、代表者を一人決めていただきます。代表者はグループを代表して発表や報告を行い、また危機が起きた際には大切な情報をコミュニティコーディネーターに伝えるサポートをします。また、地域の話し合いや今後の会議で記録を取る、書記も必要です。

### ▶ ファシリテーター指示

次のセクションに進む前に、5分ほどかけて各グループで代表者と書記を決めてください。

## ネットワークを構築する(25分)

### 読み上げ

次に、ワークシートの、スキルと知識の共有セクションに移ります。今回の活動では、各グループでネットワークメンバーが持つ技能や備品を洗い出し、災害対応に活用できるものを把握します。

### ▶ ファシリテーター指示

参加者には、このワークシートの該当箇所を記入し、グループ内で共有するために15分間を与えてください。

### 読み上げ

グループで地域の備品、技能、知識の特定が完了しましたら、ワークシートの地域のニーズの部分に進みます。



災害は一樣に人々へ影響するのではなく、それぞれ異なる形で影響を及ぼすということを意識しておく必要があります。移動が困難で避難できない人もいれば、重要な医療機器を動かすために常に電源を必要とする人もいます。誰もがそれぞれ異なる状況を持ち、安全に対応・回復するためには追加の支援が必要な場合があります。

グループで話し合い、災害時に追加支援を必要とする世帯を特定してください。共有したくない場合は無理に話す必要はなく、詳細でも簡略でも構いません。

### ▶ ファシリテーター指示

次のセクションに進む前に、10分ほどかけて参加者にこのセクションを記入してもらってください。

## ネットワークの共有 (15分)

### ▶ ファシリテーター指示

このセクションでは、各作業班が前の活動で収集した情報を共有する機会を持ちます。作業班を作成した場合は、続いて次のセクションへ移行してください。

### 読み上げ

ここまでで皆さんは、地域の大切な連絡先をまとめ、分け合える道具やスキルについて話し合い、災害時に特に支援が必要になりそうな家庭を確認しました。次は、これらを地域の皆さんが見られるように、一つの共有資料にまとめていきます。これが地域としての基本的な備えにつながります。

それでは、先ほどの活動で出てきた中から、各グループで特に重要だと思う資源を3〜4点ほど選んでみてください。

このあと、各グループ代表者がグループの要点を発表するために順番に共有していただきます。コミュニティコーディネーターは、その内容をメモして、ワークショップ後に配布できるような資料にしてください。

## ワークショップのクロージング

### ▶ ファシリテーター指示

これで本日の災害耐性ネットワークワークショップを終了します。まだ地域で第2回目のワークショップを予定していない場合は、終了後に時間を取って日程を決めてください。

### 読み上げ

本日は災害耐性ネットワークワークショップ1日目にご参加いただきありがとうございました。地域とのつながりを深め、備えを強化できたことを願っています。ワークショップ2日目にまた皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。次回は、今日の成果をもとに地域の防災計画をつくり、災害が起きた場合を想定して試してみましょう。

ワークショップに関して質問や意見があれば、どうぞ気軽にお声がけください。改めてご参加に感謝いたします。次回のワークショップでお会いできるのを楽しみにしています。



# 2日目：計画の構築

## 導入：

### ▶ ファシリテーター指示

開始前に、2日目用のPowerPointを準備し、対応するワークシートを配布してください。

### 資料

- 補助用PowerPointプレゼンテーション(任意)
- ノート
- ペン
- 2日目ワークシート
- シナリオカード

### 読み上げ

災害耐性ネットワークワークショップ2日目へようこそ。本日のセッションは約90分間です。今回は、地域の仲間を知り、それぞれの防災ニーズや能力について学びました。本日のセッションでは、確立したネットワークを、地域防災計画にまとめることに焦点を当てます。計画が完成したら、災害シナリオゲームを通して、計画とネットワークがどのように機能するかを試します。

## ネットワークの振り返り(5分)

### ▶ ファシリテーター指示

以前に作業班に分かれていた場合は、2日目も同じグループを再結成してください。参加者に自己紹介をもう一度してもらい、前回のワークシートを見直し、新しい情報があれば追加してください。

### 読み上げ

まずは作業班で再びつながり、自己紹介をして近況を共有しましょう。前回のワークショップで記入したワークシートを見直し、特定された人々・スキル・ニーズを思い出してください。新しい情報や更新があれば、1日目のワークシートに追加していただいて構いません。

## 計画を作る(25分)

### ▶ ファシリテーター指示

もし参加者が作業班を作らなかった場合は、全体で協力して計画を作り、最終計画の要点を決めます。

### 読み上げ

それでは全員が近況を共有したところで、地域防災計画を作り始めましょう。この計画は、コミュニケーション計画・ケア計画・再会計画で構成されます。

コミュニケーション計画は、災害時や災害後に地域がどのように連絡を取り合うかを定めるものです。ケア計画は、災害時に追加の支援が必要な人を把握し、どのように対応するかを示すものです。最後に、再会計画では、災害後に地域の人々が安全に集まり、お互いの安否を確認できる複数の場所を定めます。



作業班内で、ワークシートと指針となる質問を用いながら、これらの計画案を作成してください。作成が終わったら、全体で集まり、各案の主要なポイントを使って、地域防災計画を作成します。防災計画は万能の解決策ではないことを忘れないでください。災害ごとに異なる課題があります。防災計画は厳格な指示書ではなく、柔軟に対応するための指針となるべきです。

## 計画を共有する(20分)

### ▶ ファシリテーター指示

このセクションでは、各作業班が自分たちの計画の重要なポイントを全体と共有します。もし地域が作業班に分かれていない場合は、このセクションを飛ばしてシナリオゲームに進んでください。

#### 読み上げ

各グループでコミュニケーション・ケア・再会計画をワークシートにまとめていただきました。では次に、それらを一つにまとめて、地域全体の防災計画をつくっていきましょう。

グループごとに計画の中で特に強みと考えられる4点を特定してください。



### ▶ ファシリテーター指示

コミュニティコーディネーターに、各グループの強みをホワイトボードや共有文書に記録してもらいましょう。計画の種類(コミュニケーション・ケア・再会)ごとに整理してください。

#### 読み上げ

これから、各作業班代表に自分たちの計画の強みを発表してもらいます。

### ▶ ファシリテーター指示

コミュニティコーディネーターに最終的なリストをまとめてもらいましょう。

#### 読み上げ

これで、強みのリストを確認し、地域としてどの要素を防災計画に採用するかを決めます。

最終的な地域防災計画は、ワークショップ終了後にメールで配布されます。

# シナリオゲーム(30分)

## ▶ ファシリテーター指示

ここで、災害耐性ネットワークをシナリオゲームで実際に試します。ゲームは、読み上げるシナリオと、各グループに配布するシナリオカードで構成されます。カードには物語が書かれており、参加者がシナリオに取り組む際の出発点となります。また、ワークシートには指針となる質問と記録用のスペースがあり、進行を助けます。

### 読み上げ

災害耐性ネットワークと防災計画が整いました。次のステップとして、これを災害シナリオに照らして検証します。計画は災害シナリオに基づいて検証します。今回は、ワークショップ用に用意した仮の災害シナリオを使います。これまでに学んだことや構築したネットワークを活用して、災害への対応と復旧に取り組んでください。では、シナリオを読み上げます。

## ▶ ファシリテーター指示

ここでシナリオを読み上げてください。

### 読み上げ

1日目—気象局が猛暑警報を発表しました。これは、極めて危険な暑さの状況が予想される、あるいはすでに発生している場合に出される警報です。

7日目—高温が1週間続き、最高気温は110°F、最低気温は75°Fに達しています。極端な高温が続いたことで、地域のインフラに影響が出始めました。I-5、I-90、405号線の舗装が熱で膨張し、亀裂が入り、移動が困難になっています。送電線が溶けて局所的な停電が発生し、人々は自宅で冷房を使用したり、食料を冷蔵保管したり、公共交通を利用したりすることができなくなっています。

## ▶ ファシリテーター指示

色付きのシナリオカードを各グループに配布してください。

### 読み上げ

これから配布されたシナリオカードから1枚を引いてください。カードには、各家庭がどのような影響を受けたか、どのような支援を必要としているかが書かれています。このシナリオに取り組む際は、災害耐性ネットワークと防災計画を活用して対応してください。できる限り現実的に考え、利用可能なすべての資源を検討しましょう。

カードを引いた後は、ワークシートの指針となる質問を使いながら、シナリオにどう対応するかを議論してください。

## ▶ ファシリテーター指示

グループの議論が終わったら、作業班同士で学んだことを共有し、話し合う時間を設けてください。

## 読み上げ

それでは、各作業班代表にシナリオから得た教訓を共有してもらいましょう。

### ▶ ファシリテーター指示

以下はシナリオから得られる可能性のある成果例です。これを活用して議論を進めてください。

- グレーの参加者の家は大型の冷蔵庫と冷凍庫を使って傷みやすい食品を保存する
- ホワイトの参加者はピックアップトラックを使って扇風機やエアコンを電気のある家に運ぶ
- イエローの参加者は犬を電気のある近所の家に連れて行く
- 車を持つ参加者がブルーの参加者を病院の予約に連れて行く
- 車を持つ参加者がピンクの参加者とその家族を電気のある家に送る
- 参加者がパープルの参加者を見守り、電気のある家に連れて行く
- オレンジの参加者が薬を持って電気と冷蔵庫のある家に行く



## 今後への考慮 (5分)

### 読み上げ

ワークシートやシナリオの活動は終わりましたが、災害に強い地域をつくっていく取り組みは、これからも続いていきます。災害耐性ネットワークを共有し、広げていくことは、地域の健康と安全を推進する重要な方法です。このワークショップから帰宅したら、作成した防災計画を、ご家族や参加できなかった方々と共有してください。

時間が経つにつれて、地域は変化し成長します。地域の災害耐性ネットワークを更新することは、それを有効かつ実用的に保つために欠かせません。

- 連絡先情報を更新する
- 新たに得たスキルや知識を追加する
- 新しく加わった住民をネットワークに含める
- 転居した人をネットワークから外す

私たちの地域のために災害耐性ネットワークを作り上げる取り組みに参加いただきありがとうございました。このワークショップが、地域をより近づけ、Bellevueが直面するかもしれない災害に備える力を高める助けとなったことを願っています。

